

## 日整「匠の技」技術講習会

8月24日(日)、愛整会館3階講堂にて「匠の技」技術講習会が行われた。今回のテーマは『肩甲上腕関節脱臼』で、永田 和平会員、則竹 洋昭会員、山北 陽一会員の3名の指導者が、超音波観察法、徒手整復法、包帯固定法のデモを行い、参加者同士お互いに一連の手順・操作を確認した。

藤川会長は挨拶で、「我々柔整業界は20年程前に『骨が接げない業界』と言われ、その後の10年間で『包帯も巻けない業界』というような話も出てきました。基本的な我々の業務の中で、骨折・脱臼を見落とす、整復ができない、それに伴う固定もできないということでは、ますますこの業界は疲弊していくことが予想されます」と柔整の技術継承の問題点を上げ、「日整の学術教育部で『いかに現状を打開したら良いのだろうか』ということで、基本的な骨折・脱臼の整復・固定、また後ほど説明のある超音波観察等々の情報を会員に寄与して、柔道整復の根本となるような指導をしようということが4年程前から始まりました」と「匠の技」技術講習会の経緯と目的を説明した。

講習会では前回と同様、先ず超音波観察装置の操作法と画像の見方について動画が流されたあと、三班に分かれて実際に超音波機器に触れながら観察しあった。一旦休憩の後、肩甲上腕関節の解剖と脱臼の概要、ヒポクラテス法での整復法、厚紙副子を用いた麦穂帯による固定法が標準テキストに沿った動画で紹介され、指導者らによる整復・固定のデモも行われた。参加者らも二台のベッドで随時整復・固定を行い、術者と患者役お互いの意見交換に勤しんだ有意義な講習会であった。(広報部)



## 第22回柔整師杯東海少年柔道大会 第15回東海少年柔道「形」競技会

### 第39回東海ブロック会柔道大会

9月7日(日) 学校法人米田学園 米田柔整専門学校 米田道場において第22回柔整師杯東海少年柔道大会及び第15回東海少年柔道「形」競技会が開催された。

「形」競技会から開催され、4月27日(日)に開催された本会大会にて優勝した、岡崎支部(取) 戸松 戒斗(岡崎市柔道会)(受) 中嶋 彩央里(岡崎市柔道会)、監督 作田 新之助3段が愛知県代表として出場し、各県代表の素晴らしい演武が披露される接戦の中、3位入賞を果たした。

「形」競技会終了後、第22回柔整師杯東海少年柔道大会が開催され、2試合会場にて選抜団体戦と女子3人制団体戦が4県によるリーグ戦で交互に開始され、本会から審判長として石田 雅明8段、審判員として夫馬 喜久治7段、相羽 秀昭6段が参加した。

選抜団体戦は、先鋒4年生(男子) 今井 雄都(稲沢柔道会)・次鋒5年生(女子) 大野 陽菜(六郷道場)・中堅5年生(男子) 水谷 公亮(小牧柔道会)・副将6年生(女子) 長谷川 琴葉乃(瀬戸陶原道場)・大将6年生(男子) 見田 輝(六郷道場) 監督: 下山 徳大4段、コーチ: 中村 太7段が務め、1回戦三重県戦2-0、2回戦岐阜県戦2-0、3回戦静岡県戦3-2と3戦3勝にて優勝した。

女子3人制団体戦は、先鋒4年生 渡会 詩織(羽田野道場)、中堅5年生 八重樫 花(東海少年柔道教室)、大将6年生 榎本 明佳里(東海少年柔道教室) 監督: 下山 徳大4段、コーチ: 中村 太7段が務めた。

1回戦三重県戦は、1-0で負け、2回戦岐阜県戦は、1-0で負け、3回戦静岡県戦は、2-1で勝ち、3戦1勝2敗にて3位入賞した。

午後から第39回東海ブロック会柔道大会が令和元年以来6年ぶりに開催され、愛知県代表選手は、先鋒: 六郷 雄平3段、中堅: 浅井 友哉3段、大将: 山田 敏貴5段、監督は、中村 太7段が務めた。

1回戦三重県戦は1-0で勝ち、2回戦岐阜県戦は1-1の引き分け、3回戦静岡県戦は2-1で勝ち、3戦2勝1分けにて愛知県が優勝した。また、見事な柔道で3試合オール一本勝ちした先鋒 六郷選手が優秀選手に選ばれ、11月16日(日)講道館にて開催される全国大会東海地区代表の先鋒に選考された。

全国大会では、東海チームが優勝できますよう会員の皆様の応援をよろしくお願いいたします。(柔道部長 中村 太)

